

第3回宮崎市上下水道事業経営審議会

投資・財政計画について



令和6年10月23日

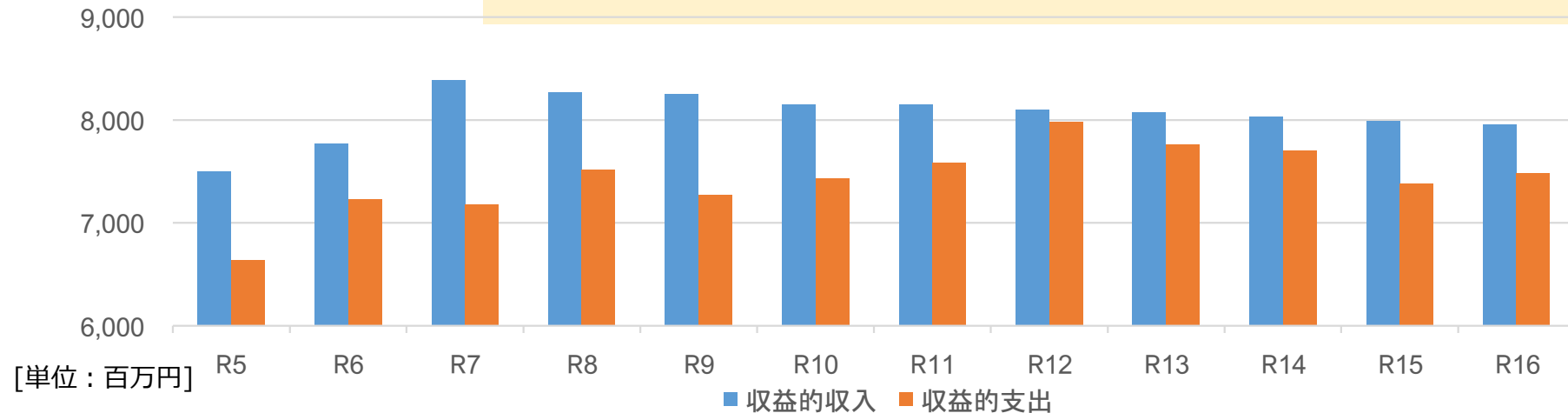
■算出条件について

収益的収入	給水収益 下水道使用料	過去の実績等から将来の有収水量を見込み推計 <u>令和7年4月からの料金改定を反映</u>
収益的支出	人件費	現行の人員体制と同額の人件費を過去5カ年の予算執行率を参考に推計
	経費	これまでの各種維持経費を過去5カ年の予算執行率を参考に推計
	減価償却費 (水道・工水)	事業完了後の資産計上と資産区分をおおむね設定し、資産ごとの償却比率を適用、加えて除却も考慮することで資産取得実態に即した減価償却費を推計 <u>※R7年度から定率法適用を定額法に変更</u> （※水道のみ）
	減価償却費 (公共・農集)	これまでの取得資産に対する減価償却費に計画期間の各年度の建設改良費を資産区分ごとに振り分け、償却比率を適用し推計
	資産減耗費	施設更新に伴う旧施設等の撤去費用及び残存価格の除却費を推計
	支払利息	<u>金利1.0%で推計</u>
資本的収入	企業債	建設改良等企業債：償還年数40年で設定 資本費平準化債・特別措置分：償還年数20年で設定（※公共のみ）
資本的支出	建設改良費	水道施設整備基本計画やストックマネジメント計画に基づく事業費及びその他事業費を過去5カ年の予算執行率を参考に推計
	企業債償還金	借り入れ後5年据え置きによる40年償還として推計
その他		<u>工事、委託、修繕など一部の経費に物価上昇を考慮して推計</u>

■水道事業①

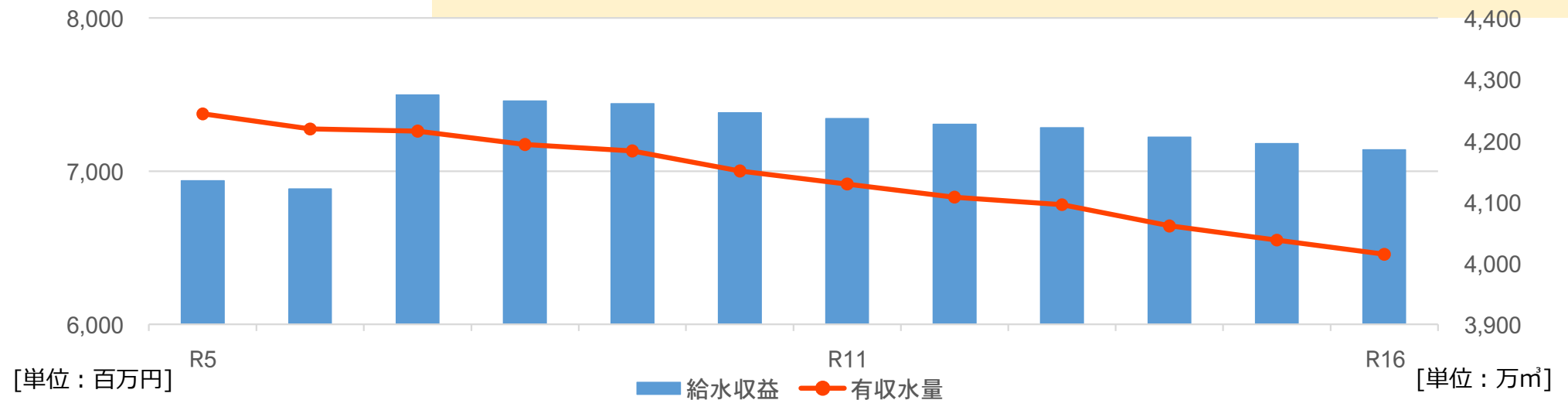
収益的収支

令和5年度決算と比較して事業費は増加するものの、毎年度純利益を確保できている

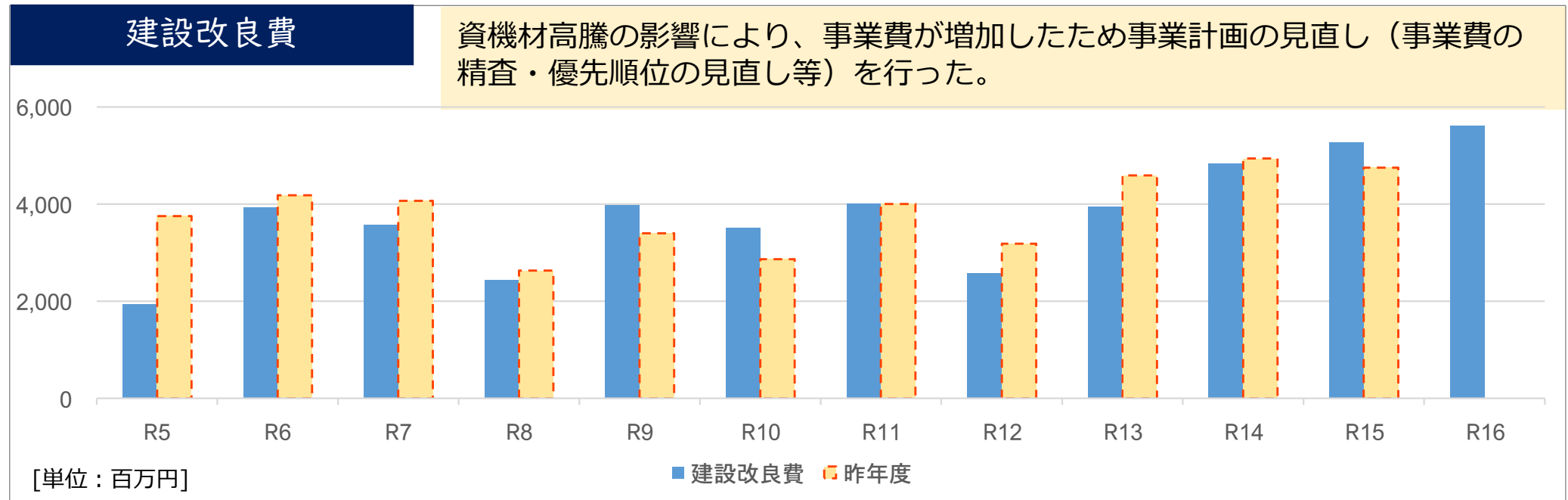


給水収益と有収水量

人口減少とともに有収水量・給水収益も減少するとして見込んでいる



■ 水道事業②

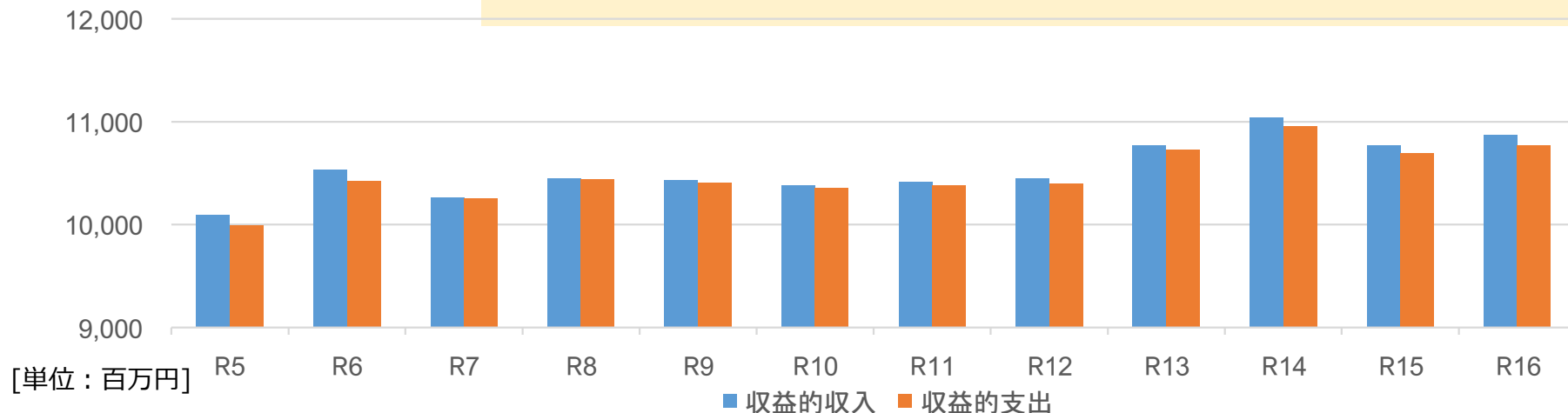


事業名	予算額（R7～R16）
下北方浄水場大規模改修事業	37億1,937万円
生目台送水管更新事業	51億2,000万円
柏田水源地更新事業	36億3,580万円
下北方配水池整備事業	15億6,480万円
幹線管路耐震化事業	72億4,313万円
経年管更新事業	88億3,300万円

■公共下水道事業①

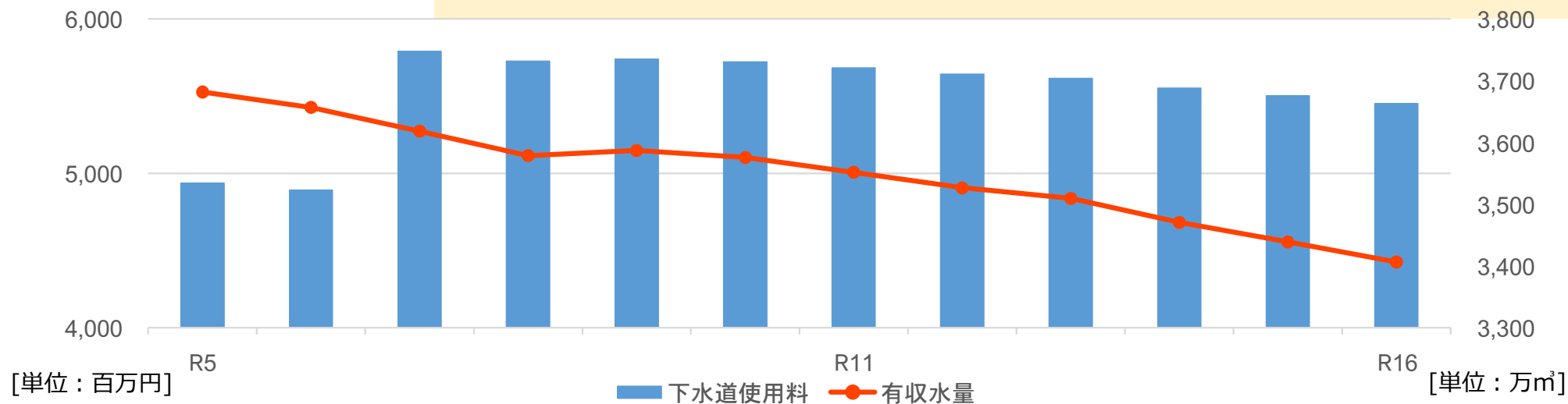
収益的収支

令和5年度決算と比較して事業費は増加するものの、毎年度純利益を確保できている（R13・R14は大淀処理場焼却設備撤去工事による増加）



使用料と有収水量

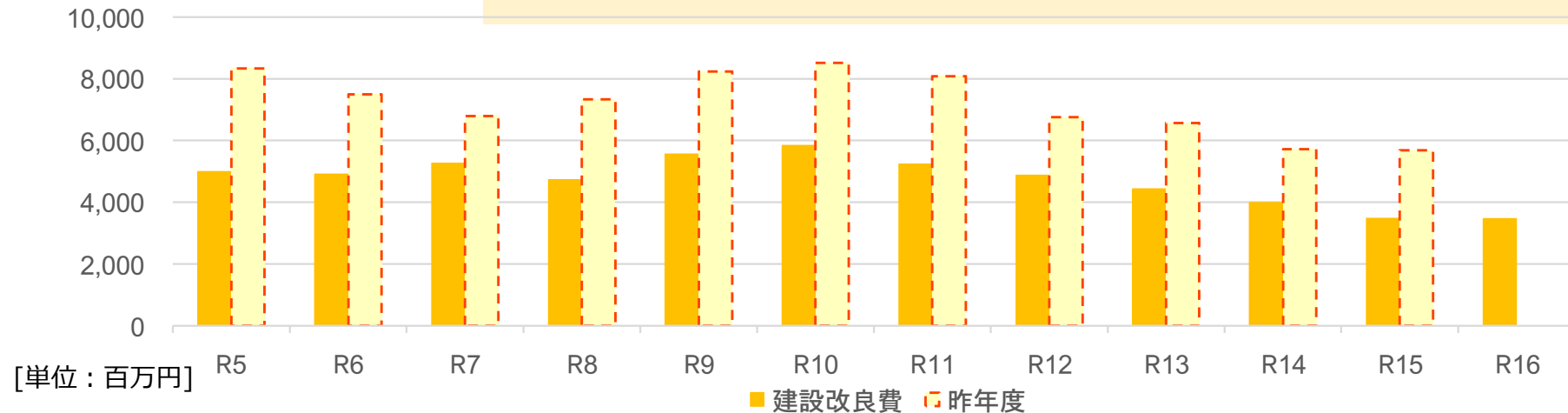
人口減少とともに有収水量・下水道使用料も減少するとして見込んでいる



■公共下水道事業②

建設改良費

資機材高騰の影響により、事業費が増加したため事業計画の見直し（事業費の精査・優先順位の見直し等）を行った。



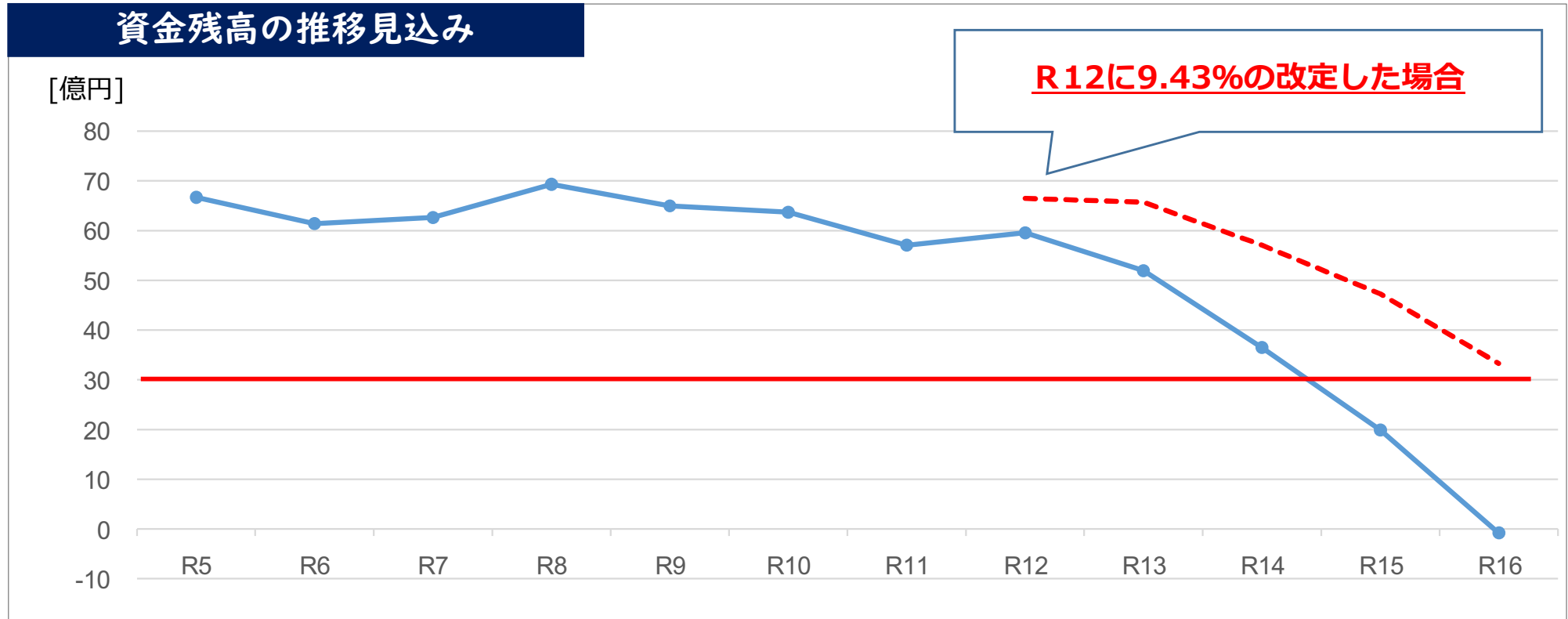
事業名	予算額（R7～R16）
耐震・耐津波化事業	94億9,800万円
改築・更新事業	309億9,176万円
浸水対策事業	68億6,025万円
G X 事業（大淀処理場改築更新（LED化など））	78億1,173万円

[illegible]

■令和5年度経営審議会にて説明した内容の確認②

(2) 【水道事業】資金残高30億円の確保

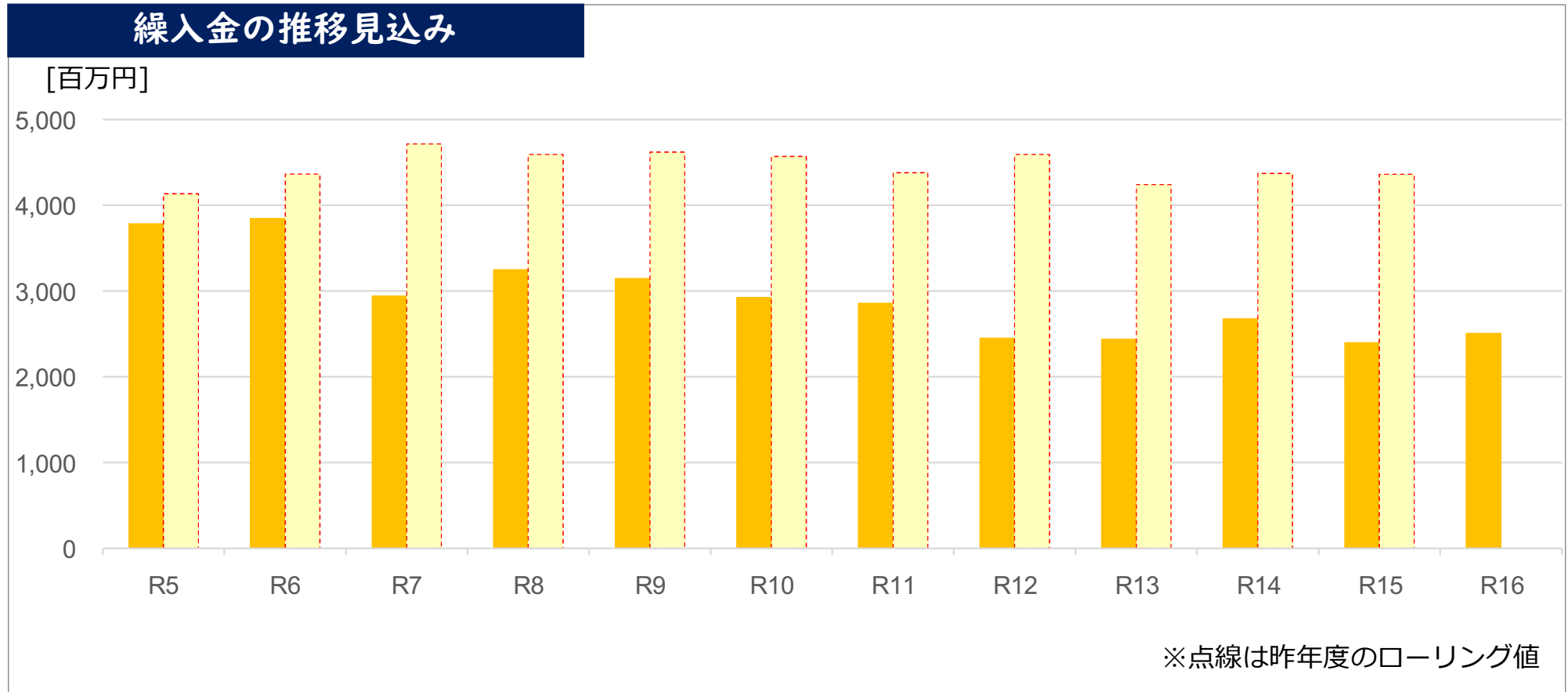
※ R11～12の点線部分は経営審議会の意見を受け削除



	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13	R 14	R 15	R 16
資金残高	67	61	63	69	65	64	57	60	52	36	20	▲0.8
R 1 2 改定後								66	66	57	47	33

■令和5年度経営審議会にて説明した内容の確認③

(3) 【公共下水道事業】繰入金の削減見込み額（対R5ローリング比）



昨年度時点では、使用料改定により**年平均9.6億円程度の削減**を見込んでいたが、今回策定した投資・財政計画では更なる事業費の精査を行ったため年平均16.2億円程度の削減を見込めることとなった。